

はじめに

近年、道内では、これまで気象条件や作物の特性上、道内において育てにくいとされてきた「にんにく」「さつまいも」「らっかせい」の栽培が拡大しています。道では、これらの作物を新たな戦略作物の可能性を有する「新顔作物」として選定し、令和4年度から更なる生産拡大と認知度の向上に取り組んでいるところです。

「新顔作物」は、今後の生産拡大が期待され、産地自らが高付加価値に向けた加工品の生産に取り組むなど、本道の戦略作物となる可能性を秘めているものの、現時点では作付が少ないことや、道内外の消費者や小売事業者などの認知度が低く、販売先も限られている状況にあります。

このため、道では、生産拡大や新たに栽培を目指す地域への支援に向けて、「新顔作物」の生産地を取材し、産地の取組や新たな作物にチャレンジした際に苦勞したことやその対策などを整理し、この度、「新顔作物産地事例集」を作成しました。

この事例集は、普及現場での共有のほか、「新顔作物」の栽培に関心のある農業者や地域の関係者の参考資料としても活用いただければ幸いです。

今後とも、「新顔作物」が、水田農業の転換作物や、畑作農業の輪作体系における第5、第6の作物として生産拡大が図られ、地域の特産物として付加価値を高め、農業者の所得確保に結びつくことを期待しています。



令和6年（2024年）2月
農産振興課長 花岡 弘毅